

## 2つの顔持つアジアの課題解決に新たな取組みを 黒田総裁がインドでの第39回 ADB 年次総会で表明

〔ハイデラバード インド 2006年5月5日〕 アジア開発銀行（ADB）の黒田総裁はインドで開催の第39回 ADB 年次総会で、アジア太平洋諸国が域内で高い経済成長を継続し、成長の利益地域に利益を広げていくことで域内にある格差を減らすための協力をすべきだ、と述べた。

黒田総裁は、「2つの顔を持つアジア：貧困なきアジア・太平洋めざし協力を」と題するスピーチで、絶対的貧困が減少している一方で、格差が広がっている2つの異なる現状を強調した。

「貧困のさまざまな側面を見ても、貧困は依然として、この地域最大の課題だ」と、黒田総裁は総会会場となったハイデラバード国際会議場の2000人を超す加盟各国代表団ら参加者を前にしてのスピーチで述べた。「従って、貧困の根絶は、引き続きアジア開発銀行の確固たるパッションであり、ビジョンであり、ミッションである」とも述べた。

また、黒田総裁は、アジア太平洋地域の人々が、経済を変革し、それによって貿易が盛んになり経済の成長も加速していることを指摘した。

黒田総裁は「アジアの顔は変わりつつある。今日、何億というアジアの人々は、以前よりも豊かな暮らしを享受している。そして中産階級も増えている。世界におけるアジアの地位も高まりつつある」と述べた。

「しかし、目を凝らすと、もう1つのアジアの顔が見える。この地域で、ますます繁栄が見られる一方で、地域の5人に1人が未だに安全な飲料水を手に入れることが出来ていない。地域全人口の半分の人々には適切な衛生施設がない。そして、400万以上の子供たちが今年、5歳に達することなく死んでいっている」と。

中期的には社会開発や持続的かつ公平な成長、グッド・ガバナンス（良き統治）を促すとともに環境に関する責任を果たすといったことをプラグマチックに行うことが所得格差や機会の不平等を解消する一助になるが、それらの優先課題に取り組むための ADB の中期戦略（MTS）が、いま作成の最終段階に来つつある、と黒田総裁は述べた。

黒田総裁は、成長の利益がより平等に分ちあえるようにするには、地域が直面する緊急の課題がある、として、いくつかの点を指摘した。

- ・ 国連の「ミレニアム開発目標（MDGs）」を実現するため、黒田総裁は、持続的なインフラ投資や勢いのある成長が恵まれない人々に対して成長の恩恵を広げていくこと、さらにプライベートセクターの参加を持続的に増やす必要性を常に強調することなどが求められる、と述べた。

---

### Media Inquiries Only

Yoshiji Makino  
Tel: +81 3 3504 3160  
Email: ymakino@adb.org

### Electronic versions of ADB news releases

ADB Online Media Center: [media.adb.org](http://media.adb.org)  
ADB web site: [www.adb.org](http://www.adb.org)

- ・ 規制の効率化や汚職の抑制といったガバナンスのちょっとした側面を改善するだけでも1人あたりの所得を飛躍的に引き上げることが出来る。また、人それぞれが公平かつ尊厳をもって処遇されることも重要だ、と黒田総裁は述べた。「あらゆる状況証拠がそれを示しているが、ガバナンスが弱ければ、最も苦しむのは貧しい人々だ」と述べた。ADBは自らの事業でガバナンスと対汚職政策を厳しく遵守していくとともに開発パートナーと協力し詐欺や汚職を防止し、それらと戦っていくための共通の枠組みを現在開発中だと述べた。
- ・ 環境劣化といった経済成長のネガティブな影響は防止する必要がある。さもなければ、貧しい人々はさらに貧しくなる。黒田総裁は、この地域の大きなエネルギー需要には特別の注意が必要だとし、ADBとしてはクリーン・エネルギー・プロジェクトのための投資を年間10億ドルにまで増やす計画でおり、開発途上国、工業国双方に恩恵をもたらす排出権市場イニシアチブ(CMI)を導入中だ、と述べた。そして黒田総裁は「われわれは、化石燃料や老朽化したエネルギーのインフラに依存することは出来ない」と述べると同時に「われわれの資源を最適利用するために、ともに努力することによって、われわれの未来の世代に対して、よりクリーンな遺産を残すことができる」と述べた。
- ・ アジアは大きな発展を遂げたが、未だなお、継ぎはぎ状態の発展となっている。このため、より深い地域協力と経済統合が、この地域すべての人々のために調和のとれた発展のタペストリー(つづれ織り)とするための経糸である、と黒田総裁は述べた。また、地域全体を通じて、国境を越える諸問題、そこには自然災害、AIDS、SARS、それに鳥インフルエンザなども含まれるが、それらに対して、各国は力を合わせて立ち向かっている、と黒田総裁は指摘した。そして「これらの出来事や事態のすべて、それは進歩だけでなくつまずきも含めてのことに對し、われわれは、さらに協力という形での努力を行うように促している」と述べる同時に「地域協力と統合の時代がやってきた」と黒田総裁は述べた。

長期的にみた場合、黒田総裁は、失業の増大、人口の高齢化、急速な都市化、拡大する貧富の格差などこの地域の今日、そして将来の問題を解決していくには新しい考え方が必要だ、と述べた。

このため、黒田総裁は、この地域の将来をしっかりと洞察してもらうため有識者による委員会を設立する。そして、委員会の意見は、2007年に日本の京都で開催予定のADB年次総会で議論され、ADBの「長期戦略」の総合的見直しの指針になるだろう、との見通しを明らかにした。

黒田総裁は、最後に、いまアジアは決定的な瞬間に立っていると述べた。

「われわれは、さまざまな資源が豊富な地域にいる。そこは、貧困というベールを完全に取り外すことを可能にする政策と、投資の判断を行うに必要な成熟、経験、そして自信を兼ね備えた地域なのだ」と述べた。

また、黒田総裁は「そこには、好機がすべての人々に与えられた1つの顔を持つ、唯1つのアジアしかない。アジア太平洋の地域は、1人1人が繁栄を共有し、人間としての尊厳を持って生活できる。私はADBが人類の進歩のための旅のパートナーでありつづけることを約束する」と述べた。